

1 章

なぎなたの特性

1 はじめに

なぎなたは、剣道とよく似た防具を着装し、相対して相手の打突部位を打ち合う「試合競技」と、定められた形を2人1組で行い、技の優劣を競う「演技競技」があります。

なぎなたのルーツを探っていくと、「なぎなた」という呼び方は『本朝世紀』久安2（1146）年の条に、源経光所持の兵杖を説明して「俗に奈木奈多と号す」とあり、このころから世に現れたと推察されます。

一般に「なぎなた」の武器としての出現は、「奥州後三年記」永保3～寛治元（1083～1087）年の戦記の中に記されており、「絵巻」では絵詩の中に描かれています。

「なぎなた」は曲線のある刃を長い柄にとりつけ、太刀よりも応用自在に扱えることから多数の敵を相手にしたり、海戦で非常に有利な武器でした。合戦では弓矢を持った馬上の兵士に対して歩兵の持つなぎなたが威力を発しましたが、鉄砲が16世紀に伝来し戦闘方法が著しく変化したため、なぎなたは急速に衰退していきました。江戸時代・慶長～明治元（1603～1868）年に入ると戦^{いくさ}はなくなり、武士の装飾的な武器、あるいはその子女の護身用として用いられるようになりました。その時代には、なぎなたは武家に嫁ぐ嫁入り道具の一つでした。各種の流派ができたのも江戸時代です。

第二次世界大戦による敗戦（昭和20（1945）年）のため、武道禁止令によりいっさいの武道は一時禁止されました。昭和27（1952）年に剣道が復活したことをうけ、昭和30（1955）年に全日本なぎなた連盟が発足し、戦闘武器ではなく、他人を思いやり凛とした心と強い精神力を鍛え、平和な世界に貢献する「武道＝なぎなた」として、再出発し、著しく発展を遂げてきました。

現在では公益財団法人全日本なぎなた連盟が中心となり、学校の授業にも取り入れられ、クラブ活動としても盛んになってきました。

毎年、全日本選手権大会ほか、全国中学生大会、インターハイ、国民体育大会など、各年代やレベルに応じた多くの大会が開催されています。

また近年、男子の愛好者も増え、女子中心の武道から老若男女問わず多くの人々が、なぎなたに親しみ、稽古に励むようになりました。

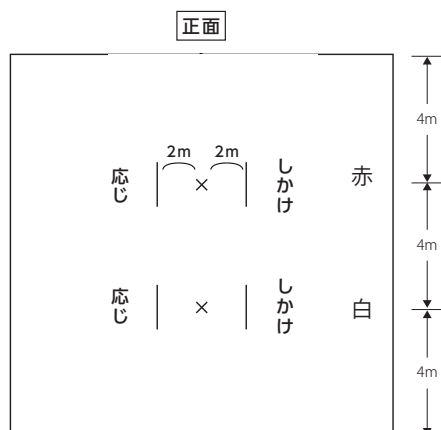
国際的には平成2（1990）年に国際なぎなた連盟が発足し、多くの国々で注目を集めるようになってきました。外国では特に男子に人気があり、様々な交流を通して日本の素晴らしい武道である「なぎなた」を海外に発信し、普及を図っています。4年に一度世界大会も開かれています。

② 演技競技

「演技競技」は、(公財)全日本なぎなた連盟の、しかけ応じ8本の中から定められた3本を2人1組の演技者によって行い、その技の優劣を競い合います。なぎなたの技の向上をはかるとともに正しいなぎなたの普及、発展を目的として行われる競技です。

▶ (1) 演技場

コートの広さは12m四方で、このコート内で赤、白2組の演技者によって技を競います。



▶ (2) 観点

演技の判定基準となるものは、演技者双方の姿勢、服装、態度、発声、呼吸と気持ちが調和しているか、打突部位を正確に気魄に満ちた打突をしているか、残心^{*}、間合、手の内^{*}、着眼^{*}等理合にかなった技であるか、何より基本に忠実な技であるかなどの総合点です。

(※の用語説明はP45参照のこと。)

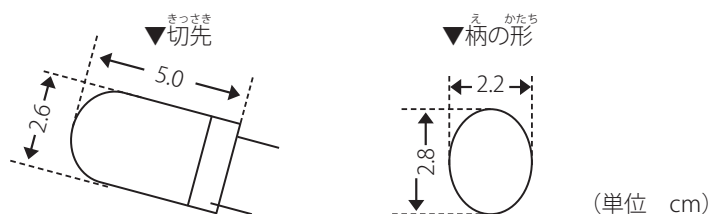
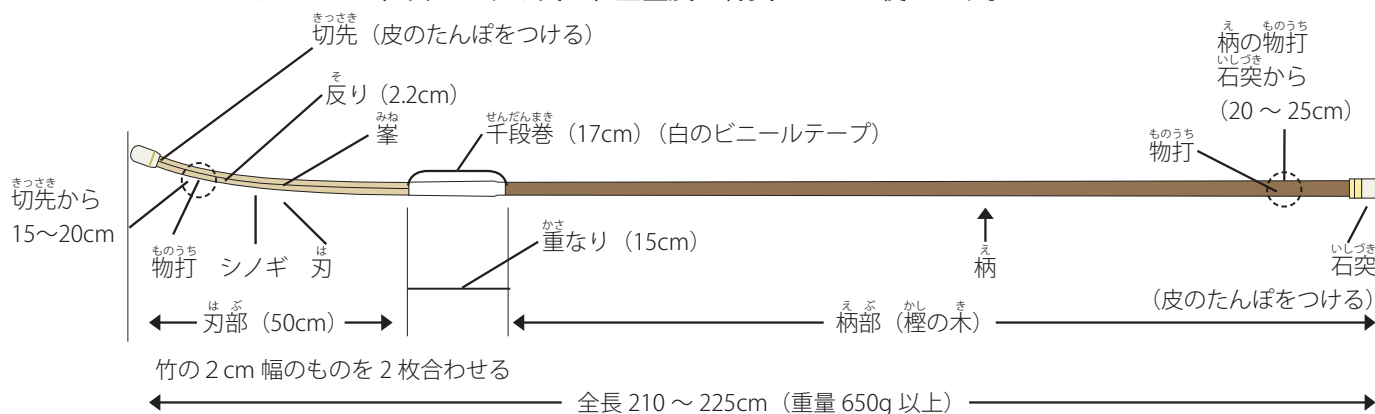
▶ (3) 勝敗

5名の審判員が赤、白の旗を持ち、演技者の充実した氣勢と適法な姿勢による技の良否を見定めて判定し、過半数をもって勝敗を決定します。

3 なぎなたと防具について

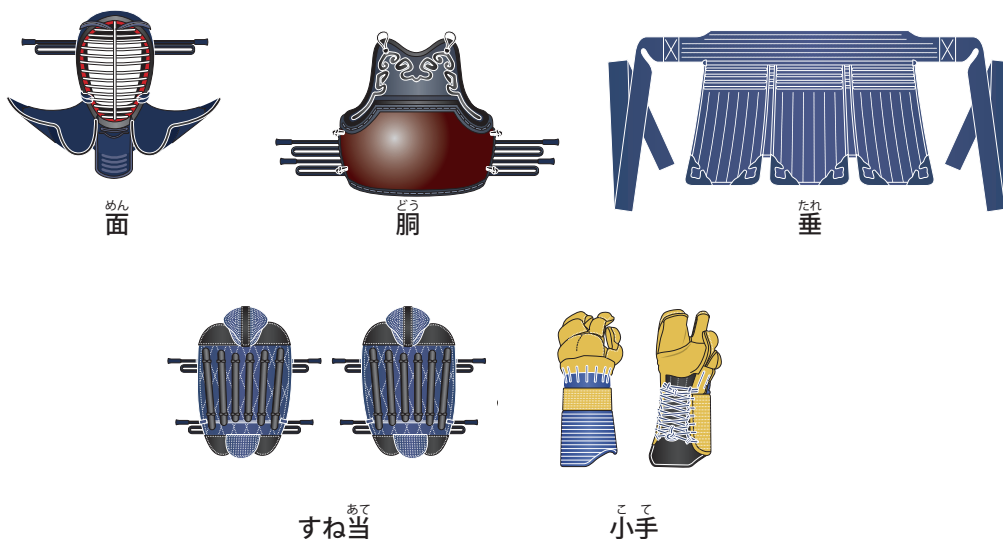
(1) なぎなた

なぎなたは、次のような長さ、重量及び材質のものを 사용합니다。

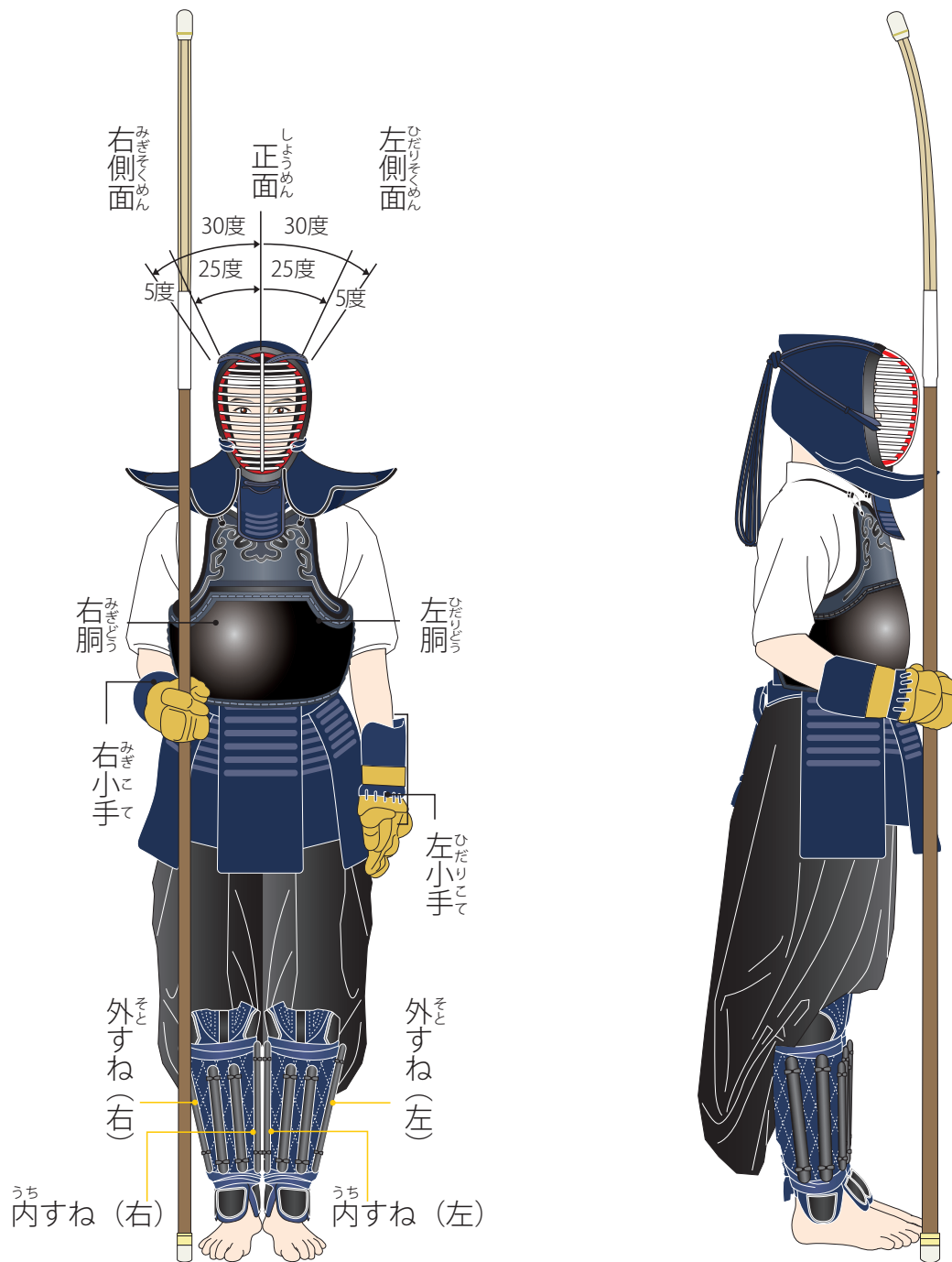


- ・全長 210cm ~ 225cm、重量 650g 以上
- ・刃部の長さ 50cm、幅 2 cm の竹を上下 2 枚合わせて、切先の竹に穴をあけ、皮のたんぽを「つる」(テトロン糸・ナイロン糸) でしっかりと結び、その上を透明のビニールテープで巻く。切先の皮のたんぽには布切れなどを詰め、丸くふくらみをもたせる。
- ・物打ちは、切先から 15 ~ 20cm、石突から 20 ~ 25cm。
- ・千段巻きの部分の刃部と柄部の重なりは 15cm、補強のため前後 1 cm 外側を白色のビニールテープで巻き、合わせて 17cm にする。
- ・柄部は楕円形の檜の木で石突がやや太くなっていて、皮のたんぽがついている。
- ・なぎなたに彩色・彫刻などの細工をしてはいけない。

(2) 防具



▶ (3) 打突部位



4 なぎなたの目標

1. 立礼・正座・座礼など日本の伝統的な行動様式に触れることで、静と動のけじめのある身のこなしを体得させる。
2. なぎなたの変化に富んだ多様な動きを体験し、達成感や充実感を味わわせる。
3. 運動に対する苦手意識が強い生徒にも取り組みやすい動きや課題を具体的に提示し、仲間と協力する態度を育て、学習したことを表現する能力をつけさせる。
4. 裸足で授業を実施することで、靴をそろえる習慣をつけるとともに、指先まで意識した運動を行わせる。
5. 基本的な約束事の体得をとおして相手を尊重する態度を表現することを学び、日常生活のなかで活かせる習慣をつける。

なぎなたの理念

なぎなたは

なぎなたの修練により

心身ともに調和のとれた人材を育成する

なぎなた指導方針

なぎなたの正しい指導により、

技を錬り、心を磨き、気力を高め、

体力を養うとともに、なぎなたの

特性の中に生きる日本のすぐれた

伝統を守り、規律に従い、礼讓を

尊び、信義を重んじ、毅然として

広く平和な社会に役立つ人を養う。

公益財団法人全日本なぎなた連盟